

## 審査の結果の要旨

氏名 大関信子

本研究は、乳幼児を持つ海外在住日本人母親の現地での生活適応状況や異文化ストレス要因、外国での子育てストレス要因、ストレスコーピング、メンタルヘルスとその影響要因を明らかにすることを目的として、6歳未満の乳幼児を持つニューヨーク・北京在住日本人母親を対象に行われたものである。その結果、以下の結論を得た。

1. SEMの分析結果、母親のメンタルヘルスは、潜在変数「子育て」に直接関連し、潜在変数「現地生活への適応」と「日本の家族と離れている」ことに間接的に関連していた。
2. 母親の精神健康度は、先行研究で報告された日本国内の健康な女性の結果よりも悪く注意を要する。
3. NY群と北京群のうち、メンタルヘルス・ハイリスク群（専門家の受診を要するGHQ30の10点以上の群）は、非ハイリスク群より情動中心型のコーピングをとる傾向が強いことが示された。
4. 「海外での子育てはストレス」と答えた群とメンタルヘルス・ハイリスク群との間には統計学的に有意な関連がみられた。「子どもの教育」や「子どもは海外生活でストレスを感じている」という要因もまたメンタルヘルス・ハイリスク群と有意な関連があることが確認された。
5. これらの他に、メンタルヘルス・ハイリスク群と関連する要因は以下の要因であった：「現地語」や「コミュニケーション」能力の低さ、「孤立」、「現地で医療サービスを受けることの困難さ」。
6. 約90%の母親は「夫が仕事などでストレス下にある」と感じており、夫の育児サポートに対する不満とメンタルヘルス・ハイリスク群との間には統計学的に有意な関連がみられた。
7. NY群と比較し、北京群は社会環境要因に起因するストレスを有意に感じていた。各都市に特有のストレス要因とそれに対応したコーピングを理解することが大切である。

以上、本研究は今まで十分に知られていなかった海外在住日本人母親の異文化での生活適応状態やメンタルヘルス上のリスクとその関連要因について新しい知見を示しており、国際母子保健学上重要な貢献をなしていることから、学位の授与に値するものと考えます。